

ドイツの脱原発・再生可能エネルギーから学び、 地域のエネルギー自給を高める岩手の取り組みを考える 「エネルギーシンポジウム」

とき
2012年
9月15日(土)
10時30分～16時まで
ところ
**岩手県水産会館5階
大会議室(盛岡市内丸)**

参加申し込み
先着120名様

参加費
1000円(弁当は別)

●参加希望の方は事前申し込みの上、参加費は当日お願いします。

テーマ

「ドイツの脱原発・再生可能エネルギーから学び、地域のエネルギー自給を高める岩手の取り組みを考える」

タイムスケジュール

10:30～	開会・日程説明
10:40～	ドイツのドキュメンタリー映画 「第4の革命」の予告編上映
11:00～	パネルディスカッションI
12:20～	昼食(弁当予約可能)
13:00～	パネルディスカッションII
16:00	閉会

参加ご希望の方は

お電話、またはFAX・メールにて以下の要項をお知らせください。

- ①お名前 ②電話番号
- ③昼食弁当の有無(600円当日払い)
FAX・メールの方には受け付けの返信を致します。

開催趣旨

- ①東京電力福島第1原子力発電所の事故により、国民の生活・安全が最優先されるエネルギーを求める声が急速に高まっています。しかし、依然日本では政府も電力会社や財界も原発稼動にこだわっています。一方ドイツではエネルギー消費の削減をしながら、高い経済成長を見事に達成しており、日本が学ぶべき政策・実践が数多くあります。その実践都市・ボットロップ市のティシュラー市長をお招きすることができ、ドイツの具体的な取り組みを学びます。
- ②ドイツでは再生可能エネルギー自給のためのエネルギー戦略や自治体の取り組み、市民の参画や事業の展開、事業者の積極的なビジネス推進、こうした人々とのコラボレーションが盛んです。わが国でも地方自治体の再生可能エネルギーや環境・共生型の地域づくりに挑戦する事例が少しづつ広がっていますが、まだまだ課題が山積みです。日本とドイツの政策の違いは何か、再生可能エネルギーの自給率を高める上では何が障害や課題となっているのか、前進させるには何から始めたらいいのかをシンポジウムを通じて考えます。パネラーと参加者の意見交換もできる長時間の大型シンポジウムです。

6名のパネラーのみなさんの紹介



□ **ドイツ・ボットロップ市長／ベルント・ティシュラーさん：**ドイツの再生可能エネルギー重点都市の市長として09年から政策・実践の先頭に立つ。持続可能な都市を作るためのさまざまなプロジェクトや教育などに力を入れている。
(通訳：東北大学名誉教授 後藤敏文さん)



□ **梶山恵司(ひさし)さん：**富士通総研上席主任研究員、元内閣官房国家戦略室内閣審議官。菅首相に請われて「脱原発」をサポート。森林・林業再生、エネルギー関連が専門。日・独のエネルギー政策にも詳しい。東北復興・政治主導のあり方など研究。

□ **藤原孝さん：**紫波町町長、町の人口は約33,000名。07年「紫波町市民参加条例」を制定し、地域再生のために自立する町づくりに専念。第1次産業を中心に地元の資源を生かす経済サイクルを提唱。

□ **中村哲雄さん：**葛巻町前町長、町の人口は約7,300名「ミルクとワインとクリーンエネルギーの町」として全国的にも評価され、特に再生可能エネルギーによりエネルギー自給率は160%

□ **五十川雅彦さん：**(株)環境エネルギー普及社員。自治体の再生可能エネルギー・環境に関するコンサルタント業務に従事。若い世代の代表としてこのシンポに参加。再生可能エネルギーへの転換の壁になっている諸問題を痛感。

□ **吉田けい子さん：**岩手県議会議員、農林水産委員、再生可能エネルギー調査特別委員。個人としてこの実行委員会のメンバー。女性の立場や県政と市民のかかわりを重視して、岩手県での再生可能エネルギー普及のための運動を模索。

●コーディネーター紹介

□ **岩岡重樹さん：**(株)アトム環境工学の代表取締役。県内だけでなく、国内外にネットワークをもち、環境問題や再生可能エネルギーに関する専門家として活躍。このシンポジウム実行委員会メンバー。

問い合わせやお申し込みは 岩手県生活協同組合連合会

TEL:019-684-2225 FAX:019-684-2227 メール:sn.ikenren@todock.jp

<主催>ドイツの脱原発・再生可能エネルギーから学ぶ講演会・シンポジウムを成功させる実行委員会